

## 連載

## 欧州から (14) COMPOSER'S TOOLKIT

石井 紘美

Hiromi ISHII

International Kunstakademie Heimbach

## 概要

この連載記事は主に欧州における現在の電子音響音楽に関する様々な活動や問題を電子音響音楽と一般社会、電子音響音楽と教育、電子音響音楽と現代音楽界などの観点からレポートしていく。今回はイギリスのSAM(Sound and Music)のホームページから、作曲家達の活動に対する様々なサポートを紹介する。

This article-series reports today's issues and activities associated to electroacoustic music in Europe from the viewpoints of "electroacoustic music and general society", "electroacoustic music and education" and "electroacoustic music and contemporary music society".

## 1. 『若い作曲家のためのツールキット』

前回の『欧州から (13)』で紹介したように、イギリス電子音響音楽の代表的な活動団体だった SAN (Sonic Arts Network) は、新設の現代音楽家団体 SAM (Sound and Music) に合併吸収された<sup>1</sup>。その SAM のホームページには『Toolkit』という興味深いページがあり、作曲家のためのキャリア、作曲家やプロデューサーとしてのキャリア作りや発展に役立つガイド、とある。内容は『若い作曲家のためのツールキット』『作曲家のためのツールキット』『プロデューサーのためのツールキット』『エクスポート・ツールキット』『自然環境でのアートワークのプランニングとプロデュース』という項目から成っていて、イギリス音楽界の新進作曲家達をサポートするためのページだ。特に電子音響音楽作曲家だけを対象としているわけではないが、日本で活動する若手やベテラン作曲家などにとっても色々役に立つ部分があるかと思うので、以下紹介していきたい。まず『若い作曲家のためのツールキット』に進んでみよう。ここには、What is the Young Composer's Toolkit? という見出しとともに、

『もしあなたが作曲に興味を持っていて25歳以

下なら、このツールキットはあなたのためのもの。これはあなたがイベントやコンクール、アドバイス、ビデオなどを見つける手助けとなるよう、さらにはあなたの作曲のスキルを上達させる手助けとなるように作られています』

という説明がある。そしてその内容は、

- Opportunities
- Advice
- Education
- Resources
- For Teachers

となっている。Opportunities では、『賞/助成金、募集/委嘱、仕事/リクルート、パフォーマンス、リサーチ/教育/コース、レジデンシー、就職、18歳以下の若手作曲家、その他』の項目があり、地域別にイギリス各地、オンライン、インターナショナルなどフィルターを、また『アカデミック、AV、作曲、デジタル、フィルム』等々の項目でもフィルターをかけて検索を絞ることができる。ここにはあらゆる公募/募集情報などがタイムリーに集められているのだ。

Advice に進んでみよう。ここでは、若い作曲家達のオンライン・フォーラムが紹介されていて、よい情報交換の場となっている。また、作曲家として活動するためのアドバイスが、Heather Roche という人物によって書かれていて、そこには『あなたのスキルをより良くする為の10のヒント』『どうやって作曲コンクールに応募するか』『コンクール：幾つかの雑談と質問少々』といった項目がある。『10のヒント』には、例えばこのようなことが書いてある—

「あなたの最初のリハーサルにスコアのコピーと自分用の鉛筆、その他必要な物は全て持って時間厳守で現れること。時間厳守というのは実際は早めにとという意味。もしアンサンブルが10時にリハを始めるなら、特に指揮者がいるような編成の大きなアンサンブルで専用のリハーサルルームなら、私達演奏者たちはウォーミングアップするた

<sup>1</sup> JSSA 会報 Vol.06 No.1 pp25-28

めに早めに来ています。つまり、もしあなたが10分遅れたとすると、実際には30分くらい演奏者たちより遅れて来てることになる。どのようにセットアップするのかアドバイスするはずのあなたは居ないし、リハを始める前に個々の演奏者が質問したいかもしれないのに居ない、ということになる。もし遠方から来て、電車が遅れたりしたのなら、静かに入ってくるべき。決して荒々しくバッグを床において『誰か鉛筆貸してもらえませんか?』などと言ってはだめ」

また、

「あなたがアンサンブルにすぐに溶け込めるよう、予め彼らのHPなどを見てみんなの名前を覚えておくのも良いウラワザ。演奏者たちはあなたの名前をもちろん覚えているんだよ。事実、あなたの名前はスコアに記されているから、私達演奏者はリハの何日も前からあなたのことを考えている。... 人の名前って、とてもパワフル。覚えていれば、『クラリネット、マルチフォニーが間違ってる』という代わりに『ねえヘザー、キミのパートは93小節目にどんなことをやってる?』と訊くことが出来る。これ、演奏者にとってはスゴく大きな違いだよ」

そして、

「あなたの作品のどんなパフォーマンス要素をも注意深く考えておくこと。『あのう、15人の人々がステージにいるとどんな感じなのか想像してたのと違って...』などと作曲家がリハーサルで言うのを聞くのはとても変です」

これらは主に器楽作品を作曲している若い作曲家にとって大事なアドバイスだ。しかし、次のようなものは電子音響音楽の作曲家にとっても役に立つアイデアだろう。

「もしリハの時何か言うことになっちゃったとき何を言えばいいのか。演奏者たちは突然あなたに全員注目して、あなたが何か素晴らしいことを言うのを期待している、という状況。そんなとき、次のような質問 -

- その曲はあなたの作品全体の中でどんな風に位置づけられるのか?
- 曲の構造について述べてください。
- タイトルは音楽とどんな関係がある?
- 曲の中でどんな新しいことをやろうとしているの?
- あなたは演奏者同士の関係をどのように心に描いているの?

これらのような質問はあなたの気分をラクにするでしょう」

逆に言えば、上記のような質問への説明になるようなコメントは、演奏者達にとって有益ということかもしれない。

「コンサートが終わって、あなたは自分の曲についての思いで狂ったようになっていないかもしれない。それはポジティブなものかもしれないし、ネガティブなものかもしれない。しばらく一人になりたいかもしれない。でも、まず演奏者たちに何か言ってほしい。演奏が気に入らなかったとしても、すぐ直後にそれを言い出すのは理想的なタイミングとは言えません。それよりも『まあ、演奏は色々と考えさせられるところがあったし、それについてはみんなとぜひ詳しく話したいけれど、まずはビールで打ち上げに行かないか?』という方が私達演奏者にとっては耳に響く言葉です」

このように、微に入り細に入り、経験の浅い作曲家が自作の初演を成功させるためにどのように演奏者との血の通った関係を築いていけばよいかアドバイスがなされていて、なんとまあ親切なことかと感心する。筆者にとっても、若い頃の自分の体験を懐かしく思い出すようなアドバイスの数々であり、日本で音楽教育を受ければ普通は部活や大学の作品発表の場で身につけて行くような事柄なのだが、イギリスでは先輩がこういった事柄を後輩に指導したり注意したりする機会がないのだろうか。

そういえば筆者のイギリスでの学生時代、公開講座などの準備で椅子を並べたりスタジオに落ちている紙ゴミを拾って片付けたりすることは、ほとんどの学生はやらなかった。大学で音楽を専攻するような学生達の多くは裕福な中流家庭以上の出身だ。日本と異なり、上下の幅が大きい階級社会のイギリスでは、掃除をするという行為は使用人がやることという認識がある。日本人なら、自分の作品のリハーサルであれば、早めに来て椅子や譜面台を準備したりするのはもちろん、会場までの交通、地図、休憩時どこに自販機やトイレがあるなどの情報を演奏者に教えたりすることすら作曲家はやるだろう。限られた時間でいかに自分のリハをスムーズに効率的に行なってもらうかを必死で考えるのではないだろうか。ところがイギリス人の若者の場合、それが裏方作業や清掃だと思いがブロックされてしまうらしい。

筆者が通った大学でも、学部生よりも大学院生、博士課程、教授と目上の立場になるほど労働していたし、また大学以外の場でもこの現象は見られた。ところが同じ欧州でも日本のように中流意識層が多く社会構造がイギリスより似ているドイツでは男子学生達はきびきびと椅

子を並べたり片付けたり、労働を厭わず自主的に行っていた。社会構造の違いだけでなく、イギリスの大学は『教育』機関（卒業までは半人前、修業中と見なされている）だが、ドイツの音楽大学は『プロ養成』機関（最初からプロとして扱われる代わりにプロとして振る舞うことも要求されている）と考えられているという点、またイギリスでは多くが私立で莫大な学費がかかる（負担できる学生は必然と豊かな家庭出身に限られてしまう）が、ドイツの大学や音楽大学はすべて国立（州立）で学費無料のため、出身家庭や階級層にかかわらず能力がある者は音楽を学べるというような、それぞれの社会の事情を反映しているように思う。

## 2. 作曲家のためのツールキット

話を戻して、つぎの『作曲家のためのツールキット』に進もう。ここには、

- 01 Earning a Living
- 02 Promoting Yourself
- 03 Getting Your Work Performed Live- The DIY Option
- 04 Publishing your Work
- 05 Protecting yourself
- 06 Links and Resources

のエントリーがあり、例えば Earning a Living では Income streams、Holding down more than one job、Financial and practical organisation という項目がある。

Income stream には、委嘱、レジデンシー、助成金、ロイヤリティ、総譜を売る/貸す、といった項目が並ぶ。

「作品委嘱は作曲家にとってもっとも直接的にお金を稼げる道である一組織または個人が、あなたが彼らの為に作品を作ることに料金を払うのだ。しかしながら、委嘱を取るのは難しいことでもある。成熟した作曲家としてあなたはあなたの作品に既に親しんでいるフェスティバル、アンサンブル、オーケストラなどから交渉できうる範囲の料金で『新作を作曲しませんか』とアプローチされているかもしれない。新進気鋭の作曲家なら、あなたにとって最良のチャンスは、ロイヤル・フィルハーモニック・ソサエティの Young Composers プログラムのような芸術団体の委嘱システムを通じた作品委嘱かもしれない。個人やパトロンも、しばしば彼らの人生の特別な機会のためにあなたに作品を委嘱するかもしれない」

といった可能性が書かれ、また

「ロイヤリティは作曲家の作品を使用することに

対して支払われる。作曲家にとって主なコピーライトは演奏権とメカニカル権だ。上演権によるロイヤリティはあなたの作品が公けで演奏、コンサートでライブ演奏、またラジオやテレビで放送されることにより発生する。メカニカル権によるロイヤリティは、あなたの作品が商業目的でレコード会社からリリースされる場合に生じる。『メカニカル』という用語が使われるのは、マスターからレコード盤やカセット、CD、DVD にコピーされる都度ロイヤリティが計算される、つまりメカニカルな過程によるからだ。ダウンロードもメカニカル権のロイヤリティに結果する。ロイヤリティを受け取るためにはあなたの作品が著作権協会に登録されていなくてはならない....(略)」

と著作料を受け取るための仕組みについて詳しく説明がなされ、

「例えばあなたが作曲した 10 分の作品をオーケストラが 1000 人の聴衆の前で演奏したとすると、演奏権によるロイヤリティは約 10 ポンド」

というように収入に繋がる具体的な金額も説明されている。

次に 02 の Promoting Yourself という項目をみてみよう。ここには Online presence、Printed and in person、Targeted activities、Writing about your work といったエントリーがあり、

「デジタル時代ではホームページがあなたのメインの名詞になる。自分のホームページを作りなさい。ただで作れるプロバイダーもあるけど、プロらしくみえるためには誰かに料金を払ってデザインしてもらうのはそれだけの価値がある。その際、他の作曲家達のホームページを色々調べて参考にするといいよ」

といったアドバイスや、

「Sound Cloud に音源をアップロードして、リンクさせるとよい<sup>2)</sup>」

「写真やビデオを置くこと、ツイッターや Facebook などのソーシャル・メディアもパワフルなプロモーション」

といったアドバイスが続く。また、

「あなたの作品について明確に雄弁に書けるとい

<sup>2)</sup> 筆者が所属しているドイツ著作権協会では、管理契約下の作曲家が Sound Cloud に作品をアップロードすることは違反と見なされる。他の著作権団体でも同様の条件があるかもしれないので、注意を要する。

うことはプロモーションの成功への本質的なことです。個々の作品について、作曲のアイデアは何で、何故それが作られたのか、それに似たようなものは以前に在ったのか？ といったこと、あなたがやっていることの新鮮さや他との違いについて考えてごらんください。ビジネス用語でいうところのあなたのユニークなセールスポイントは何なのか、市場でのあなたの場所を確立するために、他の作曲家達の作品をよく見てごらんください」

といった、作曲活動の本質に触れるアドバイスも置かれている。

### 3. 作曲家としての自分をマネジメントする

最後に、HP のボトムには Opportunities、Toolkits、The Sampler というページがある。The Sampler では、What、Where、When にフィルターを掛け、様々なイベントを検索できる。What には、

- Books & Publications
- Conferences & Talks
- Courses & Workshops
- Festivals
- Live Music & Installations
- New Releases

の項目があり、例えば What を Festivals、Where を International、When を今月とすると、2015年4月現在ではベルファストのクイーンズ大学 SARC が主催する Sonorities Festival 2015 が現れる。会員は自分の関係するイベントを登録する事も出来るので、宣伝に使うことも出来るというわけだ。会員でなくとも SAM のホームページはアクセスすることができるので、これまで紹介してきた数々のページや情報、検索のツールなどは誰でも大いに活用することが可能だ。

これほど至れり尽くせりの豊富な情報を貰ったら、あとは環境が悪いなどと言いつつも出来ないだろう。実際、イギリス社会での作曲家、芸術家の地位はかなり高い。筆者のような外国人でも、知り合ったイギリス人に「(芸術系音楽の) 作曲家だ」と告げたとこ尊敬の眼差しで見られたり、入国時にアーティスト・ビザを提示したところ大げさな敬意をもって扱われた経験がある。イギリス人の若い作曲家達と知り合うと、確かに押しの強さというか自己宣伝意識の旺盛さというか、その自信満々ぶりに圧倒されるものがある。音楽自体の出来はどうであれ、ともかく「自分は大作曲家である」と信じきっている。筆者のように、作品が完成して自分で満足できるような出来なら売り込んでみよう、などと考えているようではとても太刀打ちできるものではない。それでも「結

局勝負できるのは作品の完成度だよ」などと考えている筆者は、やはり思考が『純日本人』なのだろう。

ここまで紹介してきた『作曲家の為のツールキット』は、作品の創作という中心的行為以外の、しかし社会の中で作曲家として存在していくために欠かせない現実的要素や環境などに、もっと目を向ける必要性を教えてくれる。それはつまり、作曲家である自分のマネージャーに自分自身になるということだ。自己賛美型でも自己否定型でもなく、作曲家としての気持ちや作品の出来映えへの自信(や自信の無さ)は脇に置いて、ニュートラルに冷徹に客観的に自分の作品を「芸術作品として売れるか？」と見る視点の必要性を訴えかけているようなのである。

### 4. 参考文献

[1] [www.soundandmusic.org/](http://www.soundandmusic.org/)

### 5. 著者プロフィール

#### 石井 紘美 (Hiromi ISHII)

博士 (PhD)。電子音響音楽作曲家またメディア・アーティストとして音楽作曲と映像制作の双方を手がける。ドレスデン音楽大学上級課程にてヴィルフリート・イエンチに電子音響音楽を師事。Konzert Examen (音楽家国家資格試験) 合格後、英国から奨学金を得て2001年より英国シティ大学にて博士研究。サイモン・エマーソン、デニス・スモーリーに師事。CYNETart、フロリダ電子音響音楽祭、英国 SAN-EXPO、MusicAcoustica、Musica Viva、ベルギー Musiques&Recherches、オランダ・ガウデアムス、イタリア EMU 祭、Punto y Raya、NYCEMF など様々な音楽祭や音楽週間にて作品が入選/上演され、また西ドイツ放送、中部ドイツ放送、ドイツ放送などで放送されている。2006年 (ZKM 奨学金) と2013年 ZKM 客員作曲家。WERGO よりポートレート CD 『Wind Way 風の道』が出版。2011年にはケルン大学でポートレート・コンサート、2013年にはドイツ電子音響音楽協会 webradio よりポートレート番組が放送されている。ケルン在住。